

「病院内での輸血副反応の安全監視体制（ヘモビジランス）向上に向けての実態調査」

下記の URL もしくは QR コードを読み取り、Web 入力によりご回答ください

アンケート用紙に記入後、返信用封筒でご返送くださっても差し支えありません

URL : <https://XXXXXXXX>

QR コード XXXXXX

以下のアンケートにご協力をお願いします

1. このアンケート調査に回答することに同意いただけますか

①同意します

②同意しません

(同意されない場合は、廃棄してください)

輸血副反応の安全監視体制（ヘモビジランス）について、貴施設の輸血に関するマニュアルや看護手順書等への規定、および院内教育等の方法で周知されている内容についてお尋ねします

(回答者個人の実施状況ではありません)

主に該当するもの全てチェックしてお答えください

回答したくない項目は空白で結構です

2. 輸血に関する実施手順書はありますか

①実施手順書はある ②実施手順書はない

3. 輸血前に、測定しているバイタルサインの項目を教えてください

①測定していない ②体温 ③血圧 ④脈拍 ⑤酸素飽和度 (SpO₂) ⑥呼吸数
⑦その他 ()

4. 輸血開始後 5 分間は、患者の側から離れず見守っていますか

①見守っている ②見守っていない

5. 輸血開始後 5 分の時点での、患者の観察項目を教えてください

①観察していない ②声かけ、目視 ③体温 ④血圧 ⑤脈拍 ⑥酸素飽和度 (SpO₂)
⑦呼吸数 ⑧その他 ()

6. 輸血開始 15 分程度経過した時点での、患者の観察項目を教えてください

①観察していない ②声かけ、目視 ③体温 ④血圧 ⑤脈拍 ⑥酸素飽和度 (SpO₂)
⑦呼吸数 ⑧その他 ()

7. 輸血開始後 15 分から輸血終了までの間、どのぐらいの頻度で輸血副反応発生の有無を観察していますか
①観察していない ②15 分毎 ③30 分毎 ④1 時間毎 ⑤適宜
⑥その他 ()
8. 輸血終了時での、患者の観察項目を教えてください
①観察していない ②声かけ、目視 ③体温 ④血圧 ⑤脈拍 ⑥酸素飽和度 (SpO₂)
⑦呼吸数 ⑧その他 ()
9. 輸血終了後は、どのタイミングで輸血副反応発生の有無を観察していますか
①観察していない ②1 時間後 ③2 時間後 ④6 時間後 ⑤24 時間後 ⑥検温や巡回時
⑦その他 ()
10. 輸血副反応発生時の対応方法を、輸血に関するマニュアル等で文書化していますか
①文書化している ②文書化していない
11. (10で①と回答した人のみ) 日本輸血・細胞治療学会が作成した「輸血副反応の症状項目」を、輸血に関する実施手順書やマニュアル、「電子カルテ」、「輸血伝票」等で活用していますか
①活用している ②活用していない

輸血副反応の症状項目

1) 発熱 (°C) (38°C以上、または、輸血前から 38°C以上の発熱が認められた場合は1°C以上の上昇)	10) 頭痛・頭重感
2) 悪寒・戦りつ	11) 血圧低下 (収縮期血圧 \geq 30mmHgの低下)
3) 熱感・ほてり	12) 血圧上昇 (収縮期血圧 \geq 30mmHgの上昇)
4) そうよう感・かゆみ	13) 動悸・頻脈 (成人:100回/分以上)
5) 発赤・顔面紅潮	14) 血管痛
6) 発疹・じんま疹	15) 意識障害
7) 呼吸困難 (チアノーゼ、喘鳴、呼吸状態悪化等)	16) 赤褐色尿 (血色素尿)
8) 嘔気・嘔吐	17) その他
9) 胸痛・腹痛・腰背部痛	

上記症状の初発の発症時間 (輸血開始後 分)

太字、イタリック項目は重症副反応の可能性が高く、詳細を確認する

1 2. 日本輸血・細胞治療学会が作成した「輸血副反応の診断項目表」を、輸血に関する実施手順書やマニュアル、「電子カルテ」、「輸血伝票」等で活用していますか

①活用している ②活用していない

輸血副反応の診断項目表

患者名：

患者ID：

項目	患者症状							
1) 発熱								
2) 悪寒・戦慄								
3) 熱感・ほてり								
4) 掻痒感・かゆみ								
5) 発赤・顔面紅潮								
6) 発疹・尋麻疹								
7) 呼吸困難								
8) 嘔気・嘔吐								
9) 胸痛・腹痛・腰部痛								
10) 頭痛・頭重感								
11) 血圧低下								
12) 血圧上昇								
13) 動悸・頻脈								
14) 血管痛								
15) 意識障害								
16) 赤褐色尿 (血色素尿)								
17) その他								
						[出血斑]		
診断名 (疑い)	アレルギー反応 (重症)	TRALI	輸血関連循環過負荷 (TACO)	輸血後GVHD	輸血後紫斑病 (PTP)	急性溶血性	遅延性溶血性	細菌感染症
発症時間の目安 (輸血開始後)	24時間以内	6時間以内	6時間以内	1~6週間	5~12日	24時間以内	1~28日以内	4時間以内
検査項目	トリプターゼ	抗白血球抗体				(A)を参照	(A)を参照	(B)を参照
留意事項		資料4診断基準 (表1,2)に準拠	資料4診断基準 (表3)に準拠	資料4診断基準 (表4)に準拠	資料4診断基準 (表5)に準拠			

■：必須項目、□：随伴項目

検査項目 (参照)

(A)	Hb値 (低下: ≥ 2 g/dl)、LDH (上昇: ≥ 1.5 倍)、 ハプトグロビン値 (低下)、間接ビリルビン (上昇: ≥ 1.5 倍)、 直接グロブリン試験 (陽性)、交差適合試験 (陽性)
(B)	血液培養 (陽性)

1 3. 外来輸血を行っていますか

①行っている ②行っていない

1 4. (外来輸血を行っている施設のみ) 外来輸血を受けた患者又はその家族に対して、帰宅後の輸血副反応発生時の対処方法を説明していますか

①説明している ②説明していない

③その他 ()

1 5. (外来輸血を行っている施設のみ) 2021年4月~2022年3月の期間に、外来輸血で帰宅後に輸血副反応発生症例の報告はありましたか

①報告があった ②報告はなかった

1 6. 輸血責任医師 (輸血業務担当や責任者として病院等から任命されている医師) はいいますか

①いる ②いない

17. 輸血検査を担当している臨床検査技師はいますか
①専任技師がいる ②兼任技師がいる ③その他 ()
18. 輸血管理料および輸血適正使用加算は取得していますか
①取得していない
②管理料Ⅰと加算を取得している ③管理料Ⅰのみ取得している
④管理料Ⅱと加算を取得している ⑤管理料Ⅱのみ取得している
19. 輸血担当部門への輸血副反応報告のシステムを教えてください
①報告システムはない ②紙媒体と電子媒体の両方で報告する
③紙媒体のみで報告する ④電子媒体のみで報告する
⑤その他 ()
20. (19で①以外を回答した人のみ) 輸血担当部門への輸血副反応報告は、主に誰が行っていますか
(複数回答可)
①看護師 ②医師 ③その他 ()
21. (19で①以外を回答した人のみ) 輸血担当部門への輸血副反応報告のシステムは、副反応なしの症例も含めて全例報告していますか
①全例報告する ②副反応なしは報告しない
③その他 ()
22. 輸血担当部門や輸血療法委員会等が、診療録から輸血の実施記録の内容を調べることはありますか
輸血の院内巡視(監査)を含みます
①調べる ②調べない
23. (22で①と回答した人のみ) 報告された輸血副反応発生症例以外に、診療録から未報告症例が存在していたことはありますか
①未報告事例はある ②未報告事例はない ③わからない
24. 報告された重篤な輸血副反応発生症例に対して、後日、輸血担当部門や輸血療法委員会等で輸血との関連性を改めて評価していますか
①全て評価している ②一部評価している ③評価していない
25. 輸血副反応発生症例を血液センターに報告していますか
①軽微な症例を含め全例報告する ②重篤な症例のみ報告する ③全く報告しない
④その他 ()
26. 実施した輸血に対して、一定期間(例えば1ヶ月)における輸血副反応発生症例を集計していますか
①集計している ②集計しない

37. 病床数を教えてください

(病床)

38. 2021年4月～2022年3月の赤血球製剤の使用単位数を教えてください

(単位)

39. 2021年4月～2022年3月の血小板製剤の使用単位数を教えてください

(単位)

40. 2021年4月～2022年3月の新鮮凍結血漿製剤の使用単位数を教えてください

(単位)

調査は以上で終了です。ご回答を頂きまして誠にありがとうございました

ご回答の締め切りは 令和5年3月31日(金) とさせていただきます